

第9回 BELCA賞 ロングライフ部門 表彰建築物

国立西洋美術館本館

所在地：東京都台東区上野公園7-7

用途：美術館

所有者：国立西洋美術館

設計者：ル・コルビジェ

(設計監理者)坂倉 準三、前川 國男、吉阪 隆正、
文部省管理局教育施設部工営課、横山 不学

(改修設計監理者)建設省関東地方建設局、

株式会社 前川建築設計事務所、

株式会社 横山建築構造設計事務所

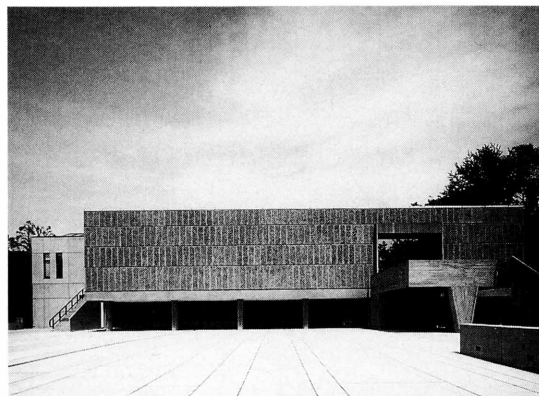
施工者：清水建設株式会社

東洋熱工業株式会社

日本電設工業株式会社

維持管理者：国立西洋美術館

竣工：1959年（改修）1998年



フランスに接収されていた松方コレクションの返還を受け、その条件として美術館を建てることになり、ル・コルビジェが設計者に選ばれた。日本側から弟子である坂倉準三、前川國男、吉阪隆正の3氏が協力し、1959年に国立西洋美術館として上野公園に竣工した。美術館本館は、19世紀大ホールを中心として、コルビジェの提唱する「無限に成長する美術館」の構想に基づいて空間構成がなされ、人間を基本とした黄金比の基準尺度の「モデュール」や、建物の接地部分を開放する「ピロティ」、コンクリートの質感を重視した「打放し仕上げ」等、コルビジェの提唱した建築的ボキャブラリーが盛り込まれている。

当美術館は竣工以来、上野公園の文化ゾーンの顔として国民に親しまれており、又東アジアで唯一実現し、現存するル・コルビジェの代表作として、近代建築史上の重要な作品となっている。

1979年に敷地北側に新館が増築され、又、1993年より地下展示場の増築を中心とする美術館全体の再整備計画が進められ、1997年防災対策の一環として、耐震補強が施された。耐震補強に際しては、本館の歴史的・文化的重要性が考慮され、デザインの継承と新たな活用を可能とする免震工法が採用され、長寿命化の措置が施されている。免震工法による改修には、コルビジェの設計意図を尊重し、エキスパンションジョイントパネルはオリジナルの前庭の砂利植えコンクリート舗装材と同材でフラットに仕上げており、デザインの継承への配慮が伺える。

本館内部は床のタイルが当時のものが使われ、打放しコンクリートの丸柱は清掃を施され開館当時の美しさを保っている。外部の土佐青石埋込のプレキャストコンクリートや打放しコンクリートも補修され、当時の清らかな調和のとれた美しさを醸しだしている。

維持保全については予防保全の観点から、5年毎に計画的に建物診断及び保全工事を実施するよう維持保全計画を作成し、又各部材の修繕周期を出来るだけ合わせる事により工事の効率化を図っている。2030年まで視野に入れた「長期維持保全計画書」を作成し、建物の長寿命化を目指している。

当美術館は所有者、管理者、設計者、施工者が三位一体となって、コルビジェの設計思想を守りながら改修を加え、コルビジェの代表作を末永く良好に維持管理して行こうという姿勢がみられ、BELCA賞の受賞にふさわしい建物であるといえる。